

病虫害発生予察注意報第 4 号

佐賀県

早生マルチ栽培のタマネギにおいてべと病の発生が確認され、2 月以降の発生増加が予想されます。今後の発生拡大による被害を防ぐため、「越年罹病株の抜き取り」と「2 月下旬からのジマンダイセン水和剤等による 10 日間隔の薬剤防除」を徹底してください。

作物名：タマネギ（早生マルチ栽培）
病虫害名：べと病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1)平成 29 年 1 月 24 日に実施した早生マルチ栽培タマネギを対象とした調査（県内 11 圃場）では、越年罹病株の発生圃場率 18.2%、発生株率 0.03%（平年 0.0001%、前年（1 月 27 日調査）0%）であり、平年及び前年より多かった（写真 1、表 1）。
- (2)上記以外の早生マルチ栽培圃場においても発生が認められている。
- (3)一方、中・晩生露地栽培タマネギでは本病の発生を認めていない。
- (4)今後、越年罹病株の発生が増加し（図 1）、伝染が拡大すれば、4 月以降に被害を生じる恐れがある。



写真1 早生マルチ栽培タマネギに発生したべと病越年罹病株
（平成29年1月24日撮影）

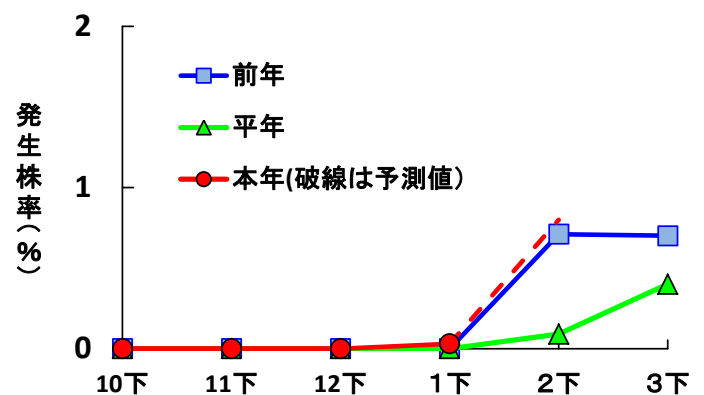


図1 早生マルチ栽培タマネギでのべと病の発生推移

表1 現地タマネギ調査圃場におけるべと病越年罹病株の発生状況(各圃場2,000株調査)

栽培方法	地点名	圃場 番号	マルチ の種類	越年罹病株の発生株率(%)			
				12月26日	1月4日	1月13日	1月24日
早生マルチ 栽培	A地区	1	透明	0	0	0	0.25
		2	透明	0	0	0	0.10
		3	透明	0	0	0	0
	B地区	4	透明	0	0	0	0
		5	透明	0	0	0	0
	C地区	6	透明	0	0	0	0
		7	透明	0	0	0	0
	D地区	8	透明	0	0	0	0
		9	緑	0	0	0	0
	E地区	10	黒	—	—	—	0
		11	黒	—	—	—	0
中・晩生 露地栽培	A地区	12	—	0	0	0	0
	B地区	13	—	0	0	0	0
		14	—	0	0	0	0
	C地区	15	—	0	0	0	0
		16	—	0	0	0	0
	D地区	17	—	0	0	0	0
		18	—	0	0	0	0
	E地区	19	—	—	—	—	0
		20	—	—	—	—	0
発病株率(全体20圃場平均)				0	0	0	0.02
(うち早生マルチ栽培11圃場平均)				0	0	0	0.03
(うち中・晩生露地栽培9圃場平均)				0	0	0	0
平年(早生)				0	—	—	0.0001
前年(早生マルチ)				0	—	—	0 <small>注)</small>
(中・晩生露地)				0	—	—	0 <small>注)</small>

注)平成28年1月27日調査

3) 防除上注意すべき事項

(1) 越年罹病株の抜き取り徹底

晴天日に各圃場ごとに発生状況を観察し、伝染源となる **越年罹病株の抜き取りを3月末まで徹底する** (図2)。抜き取った罹病株は放置せず適切に処分する。

(2) 薬剤防除の徹底

越年罹病株からの二次伝染を防止するため、**2月下旬からマンゼブ剤(ジマンダイセン水和剤)を核として10日間隔の防除を徹底する**。なお、タマネギが本病にかかりやすくなる **鱗茎肥大初期以降(早生では3月上旬~4月上旬、中・晩生では3月下旬~4月下旬)** は散布間隔を約7日に短縮して防除を行う(図2)。

(3) 農薬使用基準の遵守

薬剤防除に当たっては、**農薬使用基準(収穫前日数、総使用回数等)を遵守する**(表2)。

(4) 排水対策の徹底

圃場内に雨水が停滞すると、本病が発生しやすくなるので、土入れや溝切り等の排水対策を徹底する。

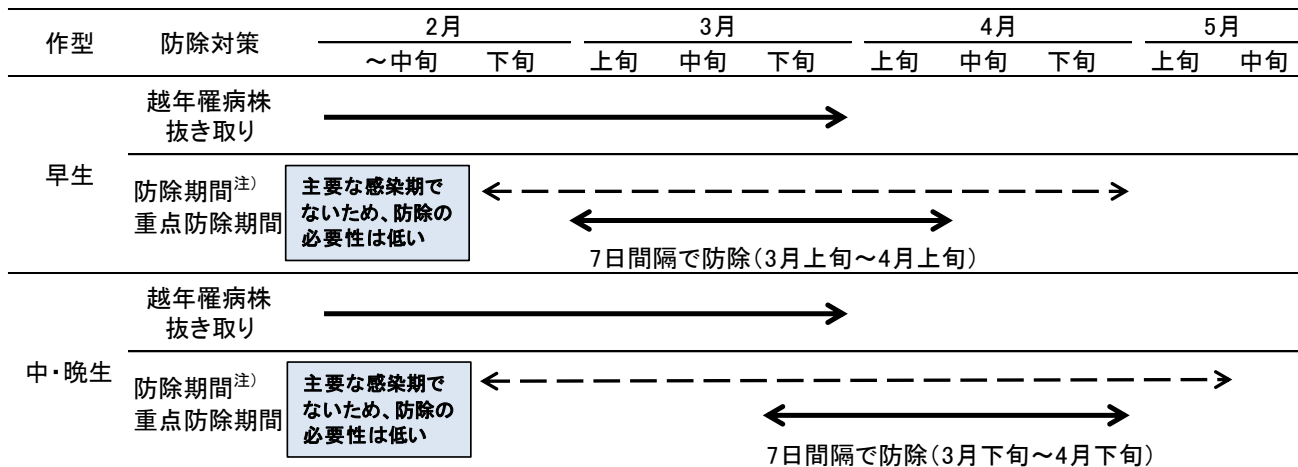


図2 今後のタマネギの防除対策(べと病越年罹病株の抜き取り時期と防除期間)

注) 通常の防除期間は約10日間隔で防除。重点防除期間は約7日間隔で防除。

表2 タマネギべと病の主な防除薬剤 ※佐賀県施肥・病虫害防除のてびきに掲載している薬剤を記載

FRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
M1	無機化合物	ヨネボン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅	500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	5回以内
M3	ジチオカーバメート	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	400~600倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	5回以内
21	Qil	ランマンフロアブル	シアゾファミド	2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
40	CAA	レーバスフロアブル	マンジプロバミド	2,000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内
40+M3	CAA+ジチオカーバメート	カンパネラ/ベネセット	ベンチアパリカルブイソプロピル・マンゼブ	750~1,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
11+M5	QoI+クロロトリル	アミスターオプティフロアブル	アゾキシストロピン・TPN	1,000倍	100~400L/10a	収穫7日前まで	4回以内
11+7	QoI+SDHI	シグナムWDG	ピラクロストロピン・ボスカリド	1,500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
21+M5	Qil+クロロトリル	ドーシャスフロアブル	シアゾファミド・TPN	1,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
21+27	Qil+シアアセトアミド=オキシム	ダイナモ顆粒水和剤	アミスプロム・シモキサニル	2,000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
27+M3	シアアセトアミド=オキシム+ジチオカーバメート	カーゼートPZ水和剤	シモキサニル・マンゼブ	1,000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
27+M5	シアアセトアミド=オキシム+クロロトリル	ブリザード水和剤	シモキサニル・TPN	1,200倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
27+11	シアアセトアミド=オキシム+QoI	ホライズンドライフロアブル	シモキサニル・ファモキサドン	2,500倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
27+40	シアアセトアミド=オキシム+CAA	ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアパリカルブイソプロピル	2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
40+M3	CAA+ジチオカーバメート	フェスティバルM水和剤	ジメトモルフ・マンゼブ	750~1,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
40+M5	CAA+クロロトリル	プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアパリカルブイソプロピル・TPN	1,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
43+40	ペンズアミド+CAA	ジャストフィットフロアブル	フルオピコリド・ベンチアパリカルブイソプロピル	3,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
45+40	QoSI+CAA	ザンプロDMフロアブル	アメトクトラジン・ジメトモルフ	1,500~2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内

登録は平成29年1月30日現在

各有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

各有効成分の総使用回数は以下のとおりである。マンゼブ：5回以内、ベンチアパリカルブイソプロピル：3回以内、シモキサニル：3回以内、シアゾファミド：4回以内、TPN：6回以内、ジメトモルフ：3回以内

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085